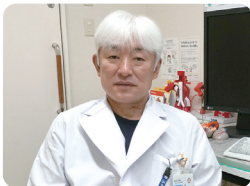


閉塞性動脈硬化症

今回は日本心臓血管外科専門医の栗山充仁医師に「閉塞性動脈硬化症」について伺いました。



▲栗山 充仁 医師

病変部位は①腸骨動脈（骨盤内）、②鼠径部

血症などを基礎疾患として有している人に多く、動脈硬化により血管（動脈）の中が狭くなり下肢の血流が悪くなる病気で、病変が進行し治療が遅れた場合は、下肢の壊死をきたし下肢切断となる場合があります、その後の生存率に関わってくると言われています。また、この病気は約40%の確率で大動脈瘤や狭心症を合併していることがあります。

一般的ですが、病変部位や病変範囲が広くなると再発率も高くなり外科的治療（バイパス手術、動脈形成術）が必要になります。できるだけ人工物を使用せずに自己静脈を用いて手術を行っています。

ではなく複数個所の病変に対して外科治療とカテーテル治療を同時に行うハイブリッド手術で、より高い長期開存率を得ることができています。
下肢の症状でお悩みの方は、気軽に心臓血管外科へ相談してください。

今回は、生活習慣病が原因の一つである下肢閉塞性動脈硬化症についてお話しします。長距離歩行後や坂道歩行後に下肢の痛みやだるさが出現して、休憩すると改善するといった症状をお持ちの方はいいのでしょうか？

病変の部位や進行具合によって治療法は異なります。軽度であれば薬物療法や運動療法など動脈硬化の予防が中心になります。

心臓血管外科では、単独病変の治療・手術だけ

糖尿 病 血 液 透 析 患 者
喫 煙 者、高 血 圧 症、高 脂

自己静脈による
下肢バイパス術



自己静脈による
下肢バイパス術

社会福祉法人
恩賜財団 済生会今治病院

今治市喜田村7丁目1番6号 <https://www.imabari.saiseikai.or.jp/>

0898-47-2500

